

# 平成 2 1 年 度 事 業 報 告 書

## 1 組織強化活動

### (1) 全戸会員制の推進

社会福祉事業の組織的活動の促進と地域福祉の増進を図るため、社協の全戸会員制を推進し、各自治会の協力のもとに8, 177戸で99.1%の加入実績となった。

### (2) 高額寄付者に対する感謝状の贈呈

社会福祉事業に10万円以上の金品を寄付された30件（寄付者）に、感謝状を贈呈した。

### (3) 研修会等への参加

- 全道社協会長事務局長研究協議会 (21年6月8日～9日 札幌市1名)
- 道北地区市社協職員自主研修会 (21年6月19日～20日 富良野市4名)
- 上川地区社協会長事務局長会議 (21年6月22日 旭川市2名)
- 全道社協職員研究協議会 (21年7月23日～24日 札幌市1名)
- 上川支庁管内社協職員研修会 (21年8月19日～20日 南富良野1名)
- 経理・事務担当者研修会 (21年9月6日～7日 札幌市1名)
- 地域に理解され支持される社協監事研修会 (21年11月9日 旭川市2名)
- 地域に理解され支持される社協役員研修会 (21年9月17日 旭川市10名)
- 市社協事務局長連絡協議会 (21年11月20日 札幌市1名)
- 地域に理解され支持される社協研修会 (21年11月25日 旭川市1名)
- 士別市自治会連合会視察研修 (21年12月3日～4日 札幌市1名)
- 災害ボランティアセンターコーディネーター養成研修会 (21年12月16日～17日 札幌市1名)
- 法人役員専門研修 (22年1月19日 札幌市2名)
- 上川北部地区社協職員連絡協議会研修 (22年3月12日～13日 下川町4名)
- 上川地区社協会長事務局長会議 (22年3月15日 旭川市2名)

## 2 広報活動

### (1) 社協だよりの発行

全戸配布する「社協だより」は、本年度より見やすい紙面に替え第144～第149号6回を発行し、各種福祉サービス、ボランティア活動及び住民の福祉活動など幅広い情報の提供に努めた。

### (2) 情報提供

各種ボランティアスクール開催案内等、ホームページによる福祉サービスの情報提供、また市内報道機関・行政の協力による広報活動を行った。

### 3 ボランティア活動

#### (1) 研修会への参加

日 程 8月1日(土)～2日(日)  
会 場 羽幌町  
内 容 ボランティア愛ランド北海道2009・オロロンラインin はぼろ  
参加者 10名

#### (2) 第20回士別市福祉教育懇談会

日 程 10月23日(金) 14:00～17:00  
会 場 士別翔雲高等学校  
講 師 D P I 北海道ブロック事務局長 我妻 武 氏  
内 容 市内各学校の教職員及び教育・福祉関係者に呼びかけ、互いの実践と情報を交換し交流する中で、福祉教育の啓発と促進を図ることを目的として開催した。  
・研修Ⅰ 公開授業 士別翔雲高等学校全校生徒538名を対象  
「障がいになって気がついたこと、障がいから学んだこと」  
・研修Ⅱ 講演  
「障がいがあってもなくても一緒に学ぶ大切さ」  
参加者 教職員、福祉関係者 37名

#### (3) 第31回住民福祉活動を進めるつどい

日 程 11月21日(土) 13:30～15:30  
会 場 士別市民文化センター 大ホール  
講 師 山崎理恵氏  
内 容 膠原病の合併症で脊髄を損傷し車椅子生活となるが、息でピアノのペダルを操作できる補助装置の開発により、再びプロ演奏家として復帰し、10月3日カナダで開催された、国際障害者ピアノフェスティバルで最高賞の金メダルに輝いた山崎理恵さんを招き、演奏会を行った。  
・トークと演奏のつどい『夢、出会い、感謝』  
参加者 494名

#### (4) 第14回中学生・高校生ワークキャンプ

日 程 12月 5日(土)～ 6日(日)  
会 場 士別市つくも青少年の家  
講 師 士別聴覚障がい者協会 平田洋子氏、殿内 誠氏  
士別手話サークル会員  
内 容 障がいをもって生活している方々や、ボランティア活動に取り組んでいる方々とのふれあいの中から、生きることの尊さや支えあう心の大切さを学び、ボランティア活動に取り組むきっかけの場となることを目的として開催した。

テーマ 「聞こえないってどんなこと？」

聴覚障がい当事者と手話サークルの方々から、聴覚障がい者の生活や、サポートする手話サークルの方々との関わり等について学習し、手話歌を体験した。

参加者 38名

(5) 第19回士別市小学生ボランティアスクール

日程 1月30日(土) 10:00~12:00

会場 士別市民文化センター 研修室

講師 道北車イスの会 本郷弘幸氏  
士別視力障がい者協会 得能清子氏

内容 講話・体験

「障がいをもって思うこと」ーいのちの大切さー

中途障がい者から、障がいをもつ前と後の生活についての実体験を講話していただき、車椅子、手引きの体験を行った。

参加者 23名

(6) 第19回士別市中学生ボランティアスクール

日程 1月30日(土) 11:00~14:00

会場 士別市民文化センター 会議室1

講師 旭川明成高校教諭 渡邊建司氏

内容 旭川明成高校ボランティア委員との交流を行い、活動の情報、また意見交換を通して福祉・ボランティア活動に対する意識の向上を図った。

参加者 25名

第27回士別市高校生ボランティアスクールと合同開催した。

(7) 第27回士別市高校生ボランティアスクール

日程 1月30日(土) 11:00~14:00

会場 士別市民文化センター 会議室1

講師 旭川明成高校教諭 渡邊建司氏

内容 旭川明成高校ボランティア委員との交流を行い、活動の情報、また意見交換を通して福祉・ボランティア活動に対する意識の向上を図った。

参加者 25名

第19回士別市高校生ボランティアスクールと合同開催した。

(8) 第31回士別市女性ボランティア活動研修会

日程 3月6日(月) 18:00~19:30

会場 士別市民文化センター 小ホール

講師 林家とんでん平氏

内容 落語家で札幌市議会議員でもある林家とんでん平さんから、様々な

人との出会いや手話落語などへの思いをお聞きする中で「こころ豊かな地域社会づくり」へ繋がることを目的に実施した。

・講演 「やさしさは豊かなこころから」

参加者 145名

(9) 第26回しべつ青年ボランティアスクール

日 程 3月15日(月) 18:30~20:00

会 場 ふれあい交流館「とも」

講 師 知的障がい者支援施設つくも園長 石井 隆 氏

内 容 昨年11月にオープンしたふれあい交流館「とも」の地域における役割を学び、あわせて施設を核とした地域福祉のあり方について研修した。

・講演「これからの地域福祉のあり方について」

参加者 67名

平成21年度ボランティア団体研修会と合同開催した。

(10) ボランティア団体研修会

日 程 3月15日(月) 18:30~20:00

会 場 ふれあい交流館「とも」

内 容 第26回しべつ青年ボランティアスクールと同様

(11) 学童生徒のボランティア活動普及事業

本事業は、学童生徒の社会福祉への理解と関心を深め、ボランティア精神を養うことを目的として、市内全校(小学校11校、中学校6校、高等学校2校)に対し、生徒数20人以上の学校は年間5万円、20人未満の学校は年間3万円を助成し活動の助長を図った。

(12) 士別市ボランティアセンターの運営

本市のボランティア活動を推進するため、18名の運営委員のもと各種ボランティアスクール、ワークキャンプ、住民福祉活動を進めるつどい等の企画運営や、ボランティアセンターだよりの発行等に取り組んだ。

○運営委員会 委員18名 委員会12回(第2月曜日)開催

○個人登録ボランティア 67名(平成22年3月31日現在)

○ボランティアセンターだよりの発行 3回

○社協だより掲示板への掲載 6回

○ボランティア指定校担当者会議の開催 2回

○自主研修会の実施

6月13日(土) 普通救急救命講習会

10月30日(金) トヨタボランティアセンターの活動について

○土曜ボランティア学習塾の開催

(ボランティア体験学習や情報交換を継続的に実施)

塾登録者 29名(中学生2名、高校生27名)

塾開催日 毎月第2土曜日（10回開催）塾生延べ 139名参加  
開催内容 ふれあい広場（学童生徒コーナー）企画運営  
アダプテッドスポーツ体験、障がい者との交流等

○社会貢献活動への協力

「ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう」、「空き缶のリングプルを集めて車椅子を贈ろう」という運動が市民に定着しつつあり、特にエコキャップ（ペットボトルのキャップ）に関しては、本年度は364の団体、個人から寄せられ、平成20年4月からの送付累計は694,856個（20年4月～22年4月2日現在）で、ワクチン868.6人分になった。

(13) 収集ボランティア活動

市民から寄せられた使用済み切手、プリペイトカードを収集ボランティアサークルひまわりが整理し各団体に送っており、本年度の実績は下記のとおりである。

使用済み切手	210件	259,562枚	誕生日ありがとう運動本部
使用済みカード	89件	2,307枚	ジョイセフ（家族計画国際協力財団）

(14) 声の図書活動

○声の図書貸出事業

本事業は、小説、市の広報誌等を、士別声の図書会の朗読ボランティアが録音し、貸し出すものであり、出来上がった録音テープは現在1,570編10,575本となり、本年度の貸し出しは延48件197編1,510本であった。

・利用者 視力障がい者他 4名

## 4 在宅福祉サービス活動

(1) 小地域ネットワーク活動推進事業

在宅福祉活動がより一層地域に定着していくことを願って平成2年度から単位自治会を対象とした「在宅福祉サービス実践地区指定事業」を行ってきたが、平成14年度より「小地域ネットワーク活動推進事業」として改め、各自治会とタイアップした地域福祉の推進をめざし、本年度は20自治会に対し、1自治会3万円の助成を行った。

## 5 互助共励活動

(1) 無縁仏供養

日程 8月20日

会場 しべつ霊園「無縁の碑」

無縁者の霊を慰めるため、昭和60年士別市が建立した「無縁の碑」において、市関係者の参列のもと47柱の供養した。

(2) 歳末たすけあい募金運動 (21年12月 1日～30日)

本募金運動は、北海道共同募金会士別市支会と共催で行い、本年度は54件1,481,242円の浄財が寄せられた。この運動には、各報道機関をはじめ多くの市民の協力を得たところであるが、特に、催し物による募金活動にご貢献いただいた。

ボランティアサークルむぎの会主催による「歳末チャリティーふれあい演芸会」益金547,580円と、しべつふれあいの会主催「歳末チャリティーカラオケ選手権大会」益金363,200円の募金合計は、910,780円となり実績の61%を占めている。

(3) 「ふれあい募金箱」運動

昭和58年より、歳末たすけあい募金運動の通年化と市民の善意の助長を図るため、しべつふれあいの会の協力のもと「ふれあい募金箱」を設置しており、その総額が86,173円となり全額趣旨に添って「歳末たすけあい募金」として寄贈した。

募金箱設置事業所 市内36ヶ所

(4) 歳末たすけあい慰問事業 (21年12月)

民生委員・市保健福祉部の協力により対象者を調査し、歳末慰問金を配布した。

対象者 307名 慰問金 1,632,000円

(5) ふれあい広場'09INしべつPART26

日 程 7月4日(土)～5日(日)

会 場 士別市総合体育館

テ ー マ 「で愛 ふれ愛 かたり愛」～あふれる笑顔 みんなが主役～

実施主体 福祉・ボランティア団体・各学校並びに市民有志で構成された、206名の「ふれあい広場'09INしべつPART26実行委員会」が、企画から当日の運営にあたった。

内 容 ・ 語らいコーナー…語らいサロン、血圧測定、健康相談(市立病院医師派遣)

・ 体験の広場…点字教室、盲導犬体験・講話、収集ボランティア活動体験、障がい者スポーツ交流(車イスラグビー等)等

・ ステージ企画…ふれあいコンサート 等

・ ふれあいの店…障がい者関係作品展示即売、バザー

・ ボランティア障がい者福祉展

…ボランティアコーナー、特別支援教育作品展

・ 学童生徒ボランティア活動展

…各学校のボランティア活動時のパネル写真展・学童生徒企画コーナー(駄菓子屋、バルーンアート等)

・ 福祉標語

応募点数 245名 255点

最優秀作品 「さしのべて 君の笑顔と その勇気」  
・ふれあいのタベ…会券販売数 727枚  
会議 実行委員会2回含め 22回開催  
入場者 2日間 約 3,200名  
協力者 2日間 503名（実行委員を除く）  
ガイドヘルプ活動  
ガイドヘルプ委員会を設け、自力で移動の困難な方に対してのガイドヘルプ活動を行い、2日間で12名が参加してくれた。

(6)生活福祉資金貸付事務

低所得者や高齢者、障がい者のいる世帯等の生活自立を支援するため北海道社会福祉協議会が主体となり、市町村社協が受付窓口となっている事業で、本年度は生活支援費、教育支援資金についての相談が10件あった。

(7)特別生活資金（冬期生活資金）貸付事務（11月1日～3月31日）

福祉年金等を受給する高齢者、障がい者及び特定疾患世帯に対し、燃料費など冬期の生活を確保する生活資金を貸付する事業で、北海道社会福祉協議会が主体となり、市町村社協が受付窓口となっており本年度は2件の相談があった。

(8)士別市心配ごと相談所運営

近年、市民の悩みごとや心配ごと等、相談内容の多様化が目立っており、適切な助言社会資源の紹介活用等を行った。

相談所

常設相談所…社協事務局内に置き、相談員が随時相談を受けている。

地域相談所…58名の相談員（民生委員）宅とし随時相談を受けている。

相談件数 年間140件

解決…50件・再来…14件・民生委員…18件・他機関…41件・その他…17件

(9)老人安全杖贈呈事業

おおむね70歳以上の高齢者や障がい者に対し、申し出により安全杖を無料で贈呈しているが、本年度は、164本の利用があった。

(10)被災見舞い

住宅火災で全焼した3世帯に対して、1世帯2万円の見舞金を贈った。

## 6 朝日地域福祉圏事業

### (1) ふれあい昼食会

町内の70歳以上の高齢者を対象に昼食会を月1回開催し、ボランティアを含め延べ631名の参加があった。

### (2) 第42回福祉運動会

日 程 10月16日(金)

会 場 トレーニングセンター

参加者 167名

(65歳以上の住民 124名、ボランティア 43名)

### (3) ボランティア支援事業

○よって館運営支援

○子育てサロン運営支援

○知恵の蔵運営委員会支援

○広報紙「ぼらんていあネットワーク」を年8回発行した。

### (4) 助成事業

心身障がい児の療育施設通所に対し交通費の一部を助成した。

・士別市こども通園センターのぞみ園通園者8世帯(131回)

・旭川市療育施設通園者1世帯(10回)

・名寄市立総合病院リハビリ通院者1世帯(9回)

## 7 士別市総合福祉センター指定管理運営事業

## 8 士別市多世代スポーツ交流館指定管理運営事業

## 9 サポートセンターしべつ受託事業

## 10 士別市施設入浴サービス受託事業

## 11 士別市移送サービス受託事業

## 12 士別市在宅介護支援センター運営受託事業

## 13 福祉パトロール受託事業

## 14 士別市生きがいデイサービス受託事業



## 15 介護保険制度に係わる事業者指定

### (1) 居宅支援事業所（ケアプラン作成機関）

士別市社協居宅介護支援事業所 平成12年4月1日(指定) [別記9]

### (2) 居宅サービス事業所（サービス提供機関）

士別市社協ヘルパーステーション 平成12年4月1日(指定) [別記10]

士別市社協訪問入浴事業所 平成12年4月1日(指定) [別記11]

## 16 障害者自立支援法に係わる事業者指定

### (1) 居宅支援事業所（身体・知的・児童・精神）

士別市社協ヘルパーステーション 平成18年4月1日(指定) [別記12]

## 17 介護保険関係研修会への参加

- ・ 介護保険を考える集い (21年5月23日 士別市1名)
- ・ 全道ホームヘルプサービス研究大会 (21年6月22～23日 札幌市2名)
- ・ 全道社協職員研究協議会 (21年7月23日 札幌市2名)
- ・ 上川管内社連協研修会、総会 (21年7月29日 旭川市2名)
- ・ 全道地域福祉実践セミナー (21年8月28日～29日 名寄市6名)
- ・ 認定調査員現任研修会 (21年9月18日 士別市5名)
- ・ 北海道主任介護支援専門員研修会  
(21年10月20～22日、11月26～28日、12月9日～11日 札幌市1名)  
(21年11月11～13日、12月17～19日、22年1月27日～29日 札幌市1名)
- ・ 自殺予防ゲートキーパー研修会 (21年12月12日～13日 旭川市1名)
- ・ 権利擁護研修会 (22年1月26日～27日 札幌市1名)

## 18 平成21年度 強化事業

### (1) 広報紙及び情報提供の充実

年6回発行している社協だよりの文字を大きく見やすい紙面とし、また分かりやすい内容になるよう努めると共に、ホームページの充実を図り社協事業等の紹介を行った。

### (2) ボランティア活動の拡充

- ・ 企業と連携し一人暮らしの高齢者宅の除排雪に取り組んだ。(登録企業5社)
- ・ 中学生、高校生を対象にした土曜ボランティア学習塾「さぼてん」を毎月実施し、ボランティアの体験学習や情報交換を行い、自主的な活動の広がりを図った。

### (3) 社協事業出前講座の実施

地域での福祉活動の推進、福祉のまちづくりのため、また、社協活動を知ってもらうこと等を目的に、職員による出前講座を行った。

ボランティア、介護、高齢者福祉等の内容で、7回実施した。

## 19 その他

社協監事による監査	4回	8月27日・11月27日・2月24日・5月14日
社協正副会長会議	4回	5月13日・11月19日・2月17日・3月10日
社協理事会	2回	5月20日・3月23日
社協評議員会	2回	5月27日・3月29日
各種会合	25回	